



# クライストチャーチ工科大学 Ara Institute of Canterbury

ニュージーランド



●学部学生 35,000人 ●大学院生 1,200人 ●教職員 2,000人 ●留学生 1,500人

ホームページ <http://www.ara.ac.nz/>

交流協定締結年月日：2002年1月23日 主管学部：教育学部

クライストチャーチはニュージーランド南島の東海岸中央あたり、カンタベリー地方に位置している。南島最大の町のクライストチャーチは、劇場、アートギャラリー、ショッピング、フェスティバルなど都会の楽しみが詰まった賑やかな国際・観光都市としても魅力に溢れている。平成23年に地震が起きたが、現在、復興やこれからの町づくりに力を入れている都市です。



## 国際交流の特色

1906年開学。特に英語学習・ホームステイの短期留学プログラムの人気が高い。質の高い4週間の英語短期研修を毎年3月と8月～9月に実施している。2000年度以降香大生や教職員200人以上が訪問した。2017年1月23日付で交流協定の更新と、今までの交流をさらに発展させるための細則の締結を行った。2023年に大学の英語名は「Te Pūkenga Ara Institute of Canterbury」という新しい全国組織・学校名に変わりましたが、大学の日本語名はまだお馴染みの「クライストチャーチ工科大学」です。

## 交流実績（平成12年度～令和6年度）※交流協定締結前より派遣開始

年度	2000 ～ 2022	R5 2023	R6 2024
受入・派遣			
英語短期研修	155	1	3
長期留学	39	0	0
教職員の訪問	44	0	0
短期受入	1	0	0



現地での長期と短期学生の記念写真



## 教員からの声

クライストチャーチは高松とほぼ同じくらいの人口と規模で、観光地として人気が高いです。カンタベリー地方にある、南島の一番大きい都会にある、Ara Institute of Canterbury（日本語名：クライストチャーチ工科大学）は、教育学部と協定を結んで20年以上になります。お互いに信頼関係ができ、活発な協定になっています。短期留学の学生はISEL（国際英語学科）でホームステイを楽しみながら英語やニュージーランドについて勉強します。長期の場合は、まず、日本でIELTSのスコアの5.5あるいは6.0を取得後、本科の英語学習以外の授業（観光業務など）を履修できた学生もいます。短期・長期留学それぞれ良いところがあります。海外留学を考えている学生に是非お勧めしたいところです。2024年に教職大学院の院生も留学してきました。

教育学部教授 ポール・バテン

## 学生からの声

私はAra Institute of Canterburyという学校で3ヶ月間勉強しました。主には語学学校に通い、IELTS（イギリス圏で広く認められている有名な英語技能試験）の対策に、様々な志を抱く国際色豊かな友達と助け合いながら励んでいました。そんな3ヶ月間で感じたAra留学の利点を、以下に3点述べたく思います。

まず1つ目は充実したサポート体制です。私はAraでの勉強後、ワーキングホリデーを考えていたのですが、CV（履歴書）の書き方や面接のポイント等様々な支援をもらうことができ、その後の生活への大きな助けとなりました。この他にもAraの本科コースや他大学への進学支援、日本人カウンセラーの方による学校生活のサポートなど、留学生生活をより安心かつ快適・効率的に送るための体制が整っています。

次に学校設備の充実が挙げられます。語学学校も含めAraに入学した暁には、学校のほぼ全ての設備を使用することができます。カフェや図書館、語学自習室にトレーニングジム（有料）など非常に良く管理された環境で快適な留学生活を送ることができました。

最後にアクティビティの豊富さです。AraではInternational Festivalや本科コースごとのイベント、サークル活動、学校主催のアクティビティ（乗馬やスキー、サーフィンなど多数）といった様々なイベントが催されます。私も時間を見つけては積極的に参加し、ニュージーランドの文化や自然に触れるだけでなく、国際色豊かな友達と非常に楽しい時間を過ごすことができました。

この1年間で私は自分の可能性・視野を広く持つことの重要性を学び、そして如何なるときも前向きに進み続けるという生きる術を身に付けることができたように思います。そうした貴重な留学への志を持った人々に、クライストチャーチ・Araは快適で落ち着いた環境と充実した選択肢を提供してくれることと強く信じます。

田中 悠作（留学した学生）